

山の中の小さなカフェが、おかげさまで一周年を迎えることができました。入り口は普通の民家の玄関、店内はお座敷。「これがカフェ!」と怒られることもしばしばありましたが、「つぶっこ」なりの精いっぱいのおもてなしで、当初の予想をはるかに超える、約九百人のお客さまを迎えることができました。

七月二十七日の日曜日

にはオープン一周年記念「つぶっこ市」を開催しました。写真。義父の作った農産物や地元の花弁農家の菊、竹細工、手作りの雑貨など十五の小さなお店が並びました。地元の小学生からお年寄り



つぶっこカフェ
オーナー店長
佐藤真紀さん

東北 復興日記

104



里山カフェ 元気に2年目

まで約百人が訪れ、対面に響いた一日でした。で買物をする楽しさを、ここの宮城県丸森町は、久々に味わったと大好評。福島県との県境にある人でした。ファンの方が作。口一万四千人の町です。滞在型市民農園、タケノコ掘りなどの農村体験、けをして皆で踊りました。まの細工や紙すきといった。にぎやかな声が里山。た伝統工芸体験などグリ

ンツーリズムに力を入れてきました。二〇一〇(平成二十二)年には年間五十五万人の交流人口があり、若い移住者も多く、注目が高まりつつあったところでした。

しかし、福島県に近く、東日本大震災後は県内で最も放射線量が高い地域となり、昨年度の交流人口は四十三万人と十二万人も減少。若い移住者の半数は町外に流出したままです。

この丸森町を、大張地区を何とかしたい!と子育てを終えた主婦の私が奮起し起業、オープンし

たのが「カフェつぶっこ」です。

「丸森に今までにない事業で注目しています。

それにより丸森も注目されるようになり、仙台からの観光客が増えてきたように思われます(町観光課)や「あきらかに町内に活気を持ってきてくれませんか」(町観光物産協会)。そんなうれしい激励に感謝し、里山の元気な「カフェつぶっこ」二年目のはじまりです。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。